

令和5年度 第3回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和5年9月12日(火) 18時30分から20時30分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<p><委員> 塚原美光, 富岡孝明, 黒羽根史朗, 石丸美代子, 田畑由紀子, 小泉親彦, 竹下浩一, 松坂晃, 高橋和将, 橋本礼子</p> <p><事務局> 河西徹雄(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長), 物井聡(生涯学習課課長補佐), 川崎彰利(生涯学習課主任), 関嘉人(生涯学習課主事補), 佐藤大樹(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係係長)</p>
4	欠席者 (敬称略)	吉沼玲子, 小林伸朗, 小川満, 杉山章子, 久保田泰世
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	<ul style="list-style-type: none"> ・住民アンケート調査結果について ・第2期計画(素案)について
8	配布資料	<p>資料1-1…運動・スポーツに関するアンケート調査結果(概要速報表紙)</p> <p>資料1-2…運動・スポーツに関するアンケート調査結果(単純集計表)</p> <p>資料1-3…運動・スポーツに関するアンケート調査結果(クロス集計表)</p> <p>資料1-4…運動・スポーツに関するアンケート調査結果(自由意見)</p> <p>資料1-5…運動・スポーツに関するアンケート調査結果(まとめ)</p> <p>資料2-1…第2期東海村スポーツ推進計画(素案)</p> <p>資料2-2…第2期東海村スポーツ推進計画施策体系(案)</p> <p>資料2-3…第2期東海村スポーツ推進計画策定スケジュール</p> <p>参考1 …第3回スポーツフェスタTOKAI2023チラシ</p>
9	発言内容	<p>(1) 住民アンケート調査結果について</p> <p>○ 配付資料の説明…資料1-1～1-5</p>

委員) 住民アンケート調査の結果を第2期計画策定に繋げること
はもちろんだが、策定後の実行段階で住民のニーズに応える等、
具体的に取り組んでいくことが重要だと感じた。

委員) 個人で運動・スポーツをする時は「体力・健康づくりを
目的として短時間で身近な場所で」、グループで運動・スポーツ
をする時は体力・健康づくりに加えて「仲間との交流を目的と
して比較的長時間で施設を利用して」という傾向があることが
よく理解できた。

委員) 中央公民館講座(自力整体)や総合体育館のゴルフスク
ールに参加し、公共施設を訪れて初めて知った情報がある。運
動・スポーツに関わる上で「知る」ということは非常に重要な
ことだと感じた。

委員) 運動・スポーツの分野に限らず、「足を運んでみて初めて
知る」という経験はよくあることだと思う。スポーツ施設はも
ちろんだが、コミセンや集会所など村民が訪れる場に運動・ス
ポーツの情報を用意しておき、「やりたい」と思った人が一歩踏
み出せるきっかけを作ってあげられるとよい。また、スポーツ
情報の提供はアナログ、デジタル双方の使い分けが必要だと感
じている。

委員) 住民アンケート調査で、「これから行いたいスポーツ」で
はウォーキングや筋トレが上位であり、また、「スポーツを行う
理由」として体力・健康づくりが上位であることから、運動・
スポーツと健康づくりをリンクさせ、村の健康づくり事業や厚
生労働省が推進する「+10運動」(今より10分間多く体を動かす
取り組み)と連携した事業展開が効果的だと感じた。

委員) 東海村は健康診断を受診される方が多いと聞くので、健
康診断の場を利用して、もしくは医療機関と連携して健康・医
療とリンクさせるかたちで運動・スポーツをPRできると、よい
きっかけづくりになるのではないかと。

委員) 医師不足については日頃から報道で見聞きしているが、
「医者に頼らない健康づくり」を展開している自治体がある。
本村でも「健康」「生活習慣病予防」をキーワードの一つとして

位置づけられるとよい。

委員) 健康づくりを推進すれば医療費を削減できると考えられているが、国レベルではなかなか思うような成果は得られていない。東海村では村の運動・スポーツ事業や健康づくり教室、スマイル東海の事業を通して、子どもから高齢者まで生涯に渡って運動・スポーツに携わっていけるような環境が整備できればと考えている。

委員) 子どもが運動・スポーツを始めたいと思った時に、情報が少ないためロコミ頼みになっている状況が見受けられる。情報を一元化し、ワンストップで必要な情報が入手できるプラットフォームの整備が効果的だと感じている。

委員) アンケート調査結果は非常に参考になるもので、推進委員会での議論とも合致している部分が多いと感じている。しかし、計画を推進し成果を挙げていくためには、村民のニーズとスポーツ団体、さらには健康づくり分野など多分野に渡る連携先とをコーディネートできる存在が必要である。その意味でも、行政においては生涯学習課の一担当ではなく、運動・スポーツに特化した専門部署(課)が必要だと強く感じている。また、村の運動・スポーツの推進のためには、生涯学習課と村内スポーツ団体以外の第三者の視点を入れるということも必要ではないか。

委員) 運動・スポーツに特化した専門部署(課)とスマイル東海が連携協働することで、中学校運動部活動の地域クラブ化や子どもの運動・スポーツ環境の充実化、指導者や運営スタッフなどの人材発掘等を推進する形を実現したい。

(2) 第2期計画(素案)について

○ 配付資料の説明…資料2-1～2-3

委員) 高齢者のスポーツ推進について、フレイル対策(加齢により体力や気力が弱まるのを防ぐこと)に関するキーワードを記載し、健康づくり分野とリンクさせていけるとよい。

委員) 計画の推進体制について、村民は運動・スポーツを実施

	<p>する主役であって、企画立案，コーディネート，事業実施の主役ではないと思うので，役割分担を明確化しておいた方がよい。</p> <p>委員) 計画の推進体制の一角としての民間事業者とは，どのような事業所を想定しているのか。</p> <p>事務局) 村内で従業員数が多く，福利厚生施設を保有している大規模な事業所を始め，事業所の規模に関わらず従業員の運動・スポーツ参加や健康経営の実践に取り組んでいる（これから取り組もうとしているを含む）事業所を想定している。また，事業所の位置が村外であっても，連携協定を締結しているプロチームを始め，人材，知識，情報，ノウハウを持ち，本村の運動・スポーツの推進に連携して取り組んでいただける事業所を幅広く想定している。</p> <p>委員) 地域のイベントに民間事業所の従業員の方30～40名程が参加していただき，とても助かっている。今では地域住民だけで地域イベントを開催することが難しくなっている。</p> <p>委員) 村内でボランティア休暇を設けている事業所はあるのか。</p> <p>事務局) 生涯学習課の事業にボランティア休暇を利用して運営協力いただいている方もいるため，ボランティア休暇を設けている事業所は村内にもあるようである。</p> <p>委員) スポーツ少年団で活動する子どもたちの人数は年々減少しており，単独では活動が成立しないチームも増えてきている。東海村はまだ恵まれているが，近隣自治体ではさらに深刻な状態だと聞いている。また，サッカー少年団に関しては，指導者はボランティアにも関わらず，指導するためのライセンス更新にはチームで賄いきれないほどの費用が発生するため，指導者の負担が大きくなっているのが現状である。</p> <p>委員) 健康づくり事業や高齢者に関わる事業については，村福祉部等役場内の横の連携により推進していくという認識でよいのか。</p> <p>事務局) お見込みのとおりである。現在，村では「ウォーカブルなまちづくり」というプロジェクトを，ソフト・ハード両面に関わる関係課が連携協力しながら進めているところである。ス</p>
--	---

	<p>スポーツ推進計画の関連事業施策についても、関係課と連携協力しながら進めていくことになる。</p> <p>委員) 計画や資料は色数を抑え、強調したい箇所が伝わるようメリハリをつけて、多くの村民に読んでいただき視覚的にも伝わる計画を策定していきたい。</p> <p>委員) 「スポーツドクターと連携したケガ予防・改善」について、スポーツドクターの中のアスレティックトレーナーは、医療機関で行うリハビリテーションやスポーツの現場で行うコンディショニングを担う。アスレティックトレーナーのようにケガ予防を指導・実践できる指導者を養成する講座の開催が効果的だと考える。</p> <p>委員) スマイル東海では、競技者に対する活動内容・量のチェックをアスレティックトレーナーに依頼している。現在は陸上競技に絞って実施しているが、他のスポーツ団体、競技への展開も検討できるものと考えます。</p> <p>委員) 「事業施策の主な実施主体が行政」という計画では柔軟性、機動性に限界があるように感じる。行政とスポーツ団体やスマイル東海、学校等教育機関、民間事業所等が、有機的に役割分担・連携協力しながら推進する計画としたい。</p> <p>※その他の文言修正意見は次のとおり。</p> <p>① (3P) 「手伝い」 → 「影響し」</p> <p>② (4P) 「イモゾーリレー」 → 「東海村オリジナルニュースポーツ『イモゾーリレー』」</p>
10 今後の予定	次回は、10月下旬に開催予定。